

「地域への人的支援」人材育成プログラム

(平成23年度 官民連携型人材育成普及実証研究事業)

実施主体：(社)中越防災安全推進機構

実証研究事業の概要

「地域おこし協力隊」や「集落支援員」等、人材を活かした地域づくりは、支援者の資質やキャラクター、受入れ側の問題意識や体制に大きく左右され、各関係主体ごとに以下の懸念が挙げられる。

- 人的支援の担い手：「集落」に対するイメージを誤認してしまう懸念
- 集落：過度な支援により集落に依存体質が生まれる懸念
- 自治体：人的支援の理解不足から、集落との距離感が広がってしまう懸念

そこで、人的支援の担い手に対して●集落への正確な理解を促す、●戦略的支援手法の理解を促す、受入れ側に対して、●効果的な導入方法や連携イメージの理解を促すことをねらいとした実証実験の組み立てを行い、課題解決の提案を行う。

人材育成のポイント

●段階的な研修

(人的支援の導入フェーズに応じた研修プログラム)

<4つの導入フェーズと研修等必要な機会>

- ①人的支援の受け入れ前→受け入れ側の検討機会の必要
- ②人的支援の受け入れ直後→初任者向け人材育成研修
- ③中間地点→各関係主体を交えた振り返り・方針検討
- ④持続化を模索する時期→個別ケースに応じたテーマ型研修

<各フェーズを通して>

- 活動の周知・人材発掘→成果の共有による理解促進

●重層的な支援体制の構築

(人的支援から全国的な連携組織に至る重層的な地域づくりサポート体制)

<第三極によるコミュニケーション支援> 行政・住民とは違う立場で地域のまちづくりに関わるNPO等によるコーディネート
<全国規模のプラットフォーム> ①人材育成機能 ②アーカイブ機能 ③政策提案機能 ④人的支援導入支援機能

●各関係主体の連携による取り組み

(地域づくりフェーズにおけるポイント)

<5つの地域づくりフェーズとポイント>

- ①縮小均衡状態→行政と地域の距離感を濃密にする取り組み
- ②地域の自己評価段階→こう着状態からの打開策として人的支援の可能性の検討
- ③活動模索段階→人的支援の担い手による小さな成功体験への後押しと地域全体の機運づくり
- ④ビジョンの明確化→長期的イメージの共有と取り組み検討
- ⑤戦略的活動段階→密な情報共有により自治的活動へ展開